

阿蘇山

火山活動度レベル

火山活動度レベルは、2 (やや活発な火山活動) でした。

概況

中岳第一火口では、24 日まで湯だまり内で小規模な土砂噴出が継続して観測され、高さは中央部と西側で 1 ~ 3 m でした。湯だまりの量は、大雨により増加し、9 日は約 7 割、24 日には約 8 割となっているのを観測しました。

孤立型微動は、1 日当たり 17 ~ 98 回で推移しました。火山性連続微動は、5 月 13 日から 9 月 29 日まで継続しました。その後は、継続時間の短い火山性微動が 1 回発生しました。

噴煙活動の状況

噴煙は白色・中量で、噴煙高度の最高は 600m (8 月 : 800m) で特に異常は認められませんでした(図 1、図 2)。

地震・微動活動の状況

火山性連続微動は、5 月 13 日 04 時 55 分から 9 月 29 日 16 時 32 分まで継続し、26 日には一時振幅がやや大きくなりましたが、その他の期間は大きな変化はありませんでした(図 3)。孤立型微動の日回数は 17 ~ 98 回で推移し、月合計は 1,587 回(8 月 : 2,675 回)でした(図 1、図 2)。A 型地震の月合計は 22 回(8 月 : 32 回)で、うち 3 個の地震の震源が求まり、中岳第一火口付近と第一火口の北側約 7 km 付近でした(図 4)。B 型地震の月合計は 79 回(8 月 : 206 回)と減少しました。(図 1、図 2)。

火口や噴気地帯の状況

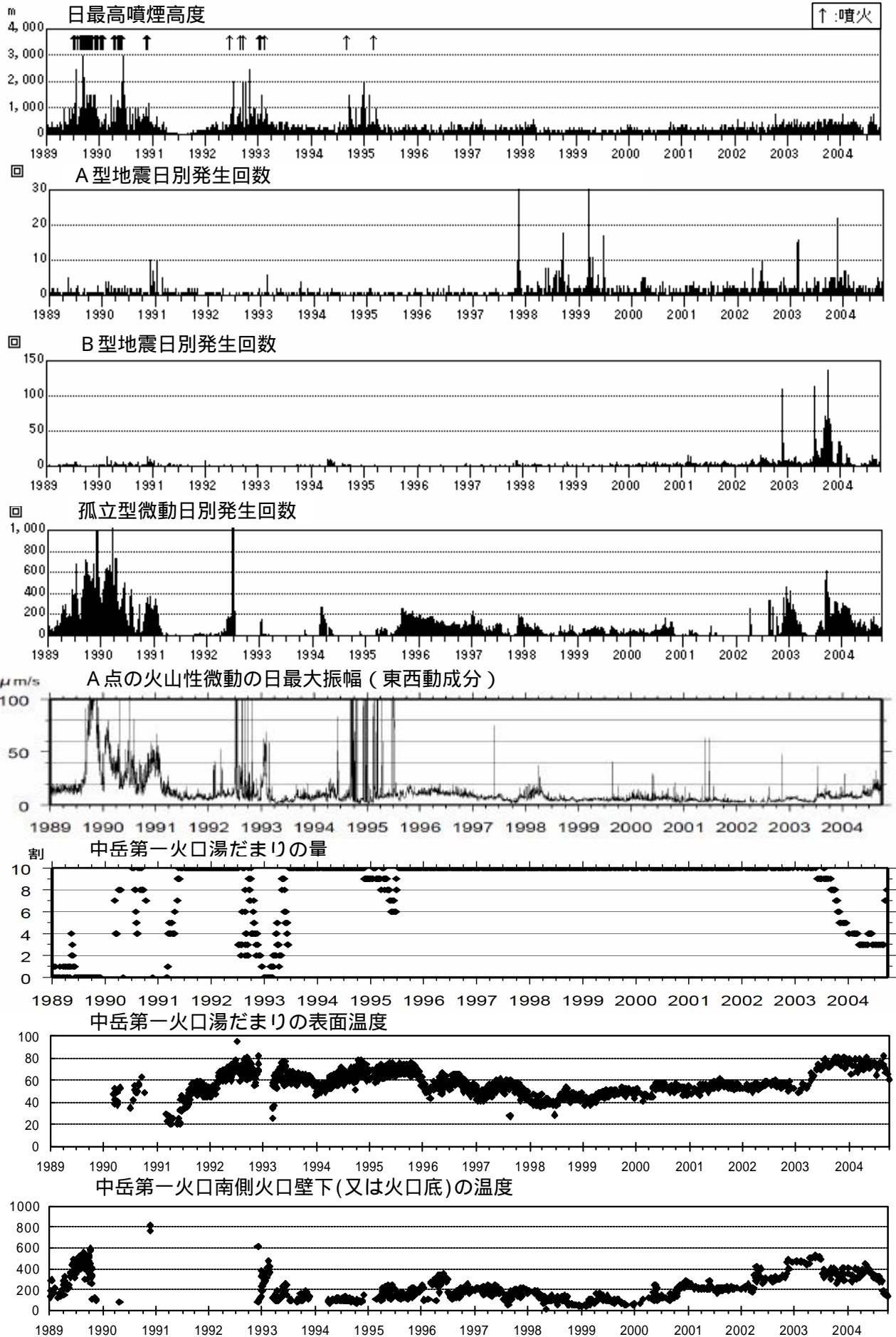
中岳第一火口の湯だまりの量は、6 月 17 日から約 3 割で経過していましたが、大雨により 9 月 9 日に約 7 割、24 日には約 8 割と増加しました。湯だまりの色にも変化があり、灰色から灰緑色に変わりました。また、小規模な土砂噴出は 24 日まで観測され、高さは中央部と西側で 1 ~ 3 m でしたが、30 日には観測されず、同部分で噴湯現象を観測しました。

湯だまりの表面温度は 61 ~ 71 (最高 2 日) で、南側火口壁下の温度も 138 ~ 187 (最高 2 日) と前月と比較するとやや低くなっています(図 1、図 2)。

(温度測定は、赤外放射温度計による)

地殻変動の状況

GPS による地殻変動観測では、草千里 - 砂千里浜、草千里 - 仙酔峡、砂千里浜 - 仙酔峡の各観測点間の基線長には、火山活動に起因する変化はありませんでした(図 5)。



阿蘇山 図 1 火山活動経過図(1989 年 1 月 1 日 ~ 2004 年 9 月 30 日)

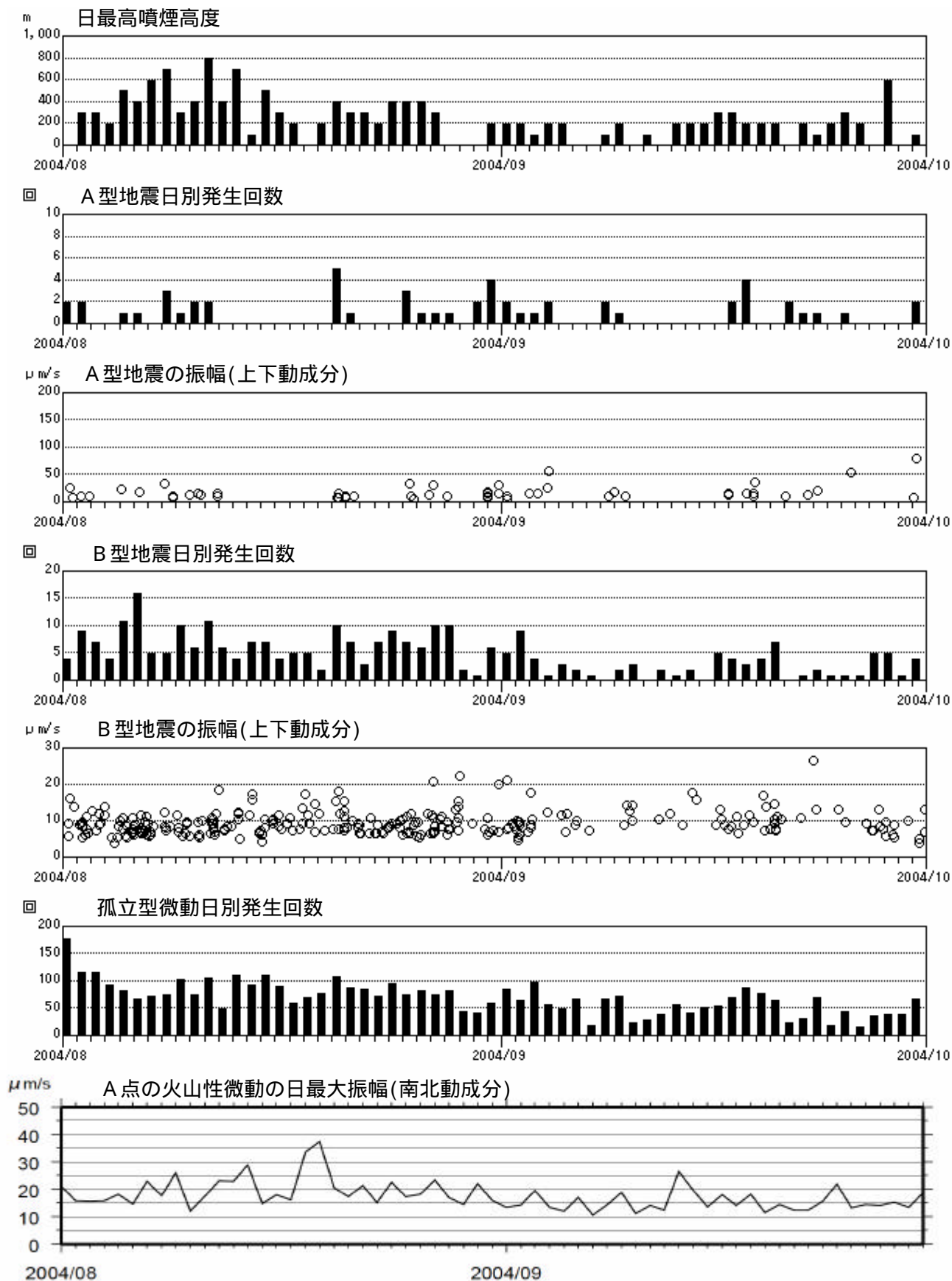


図2 火山活動経過図(2004年8月1日~9月30日)
(雷災により欠測2004年8月14日)

阿蘇山

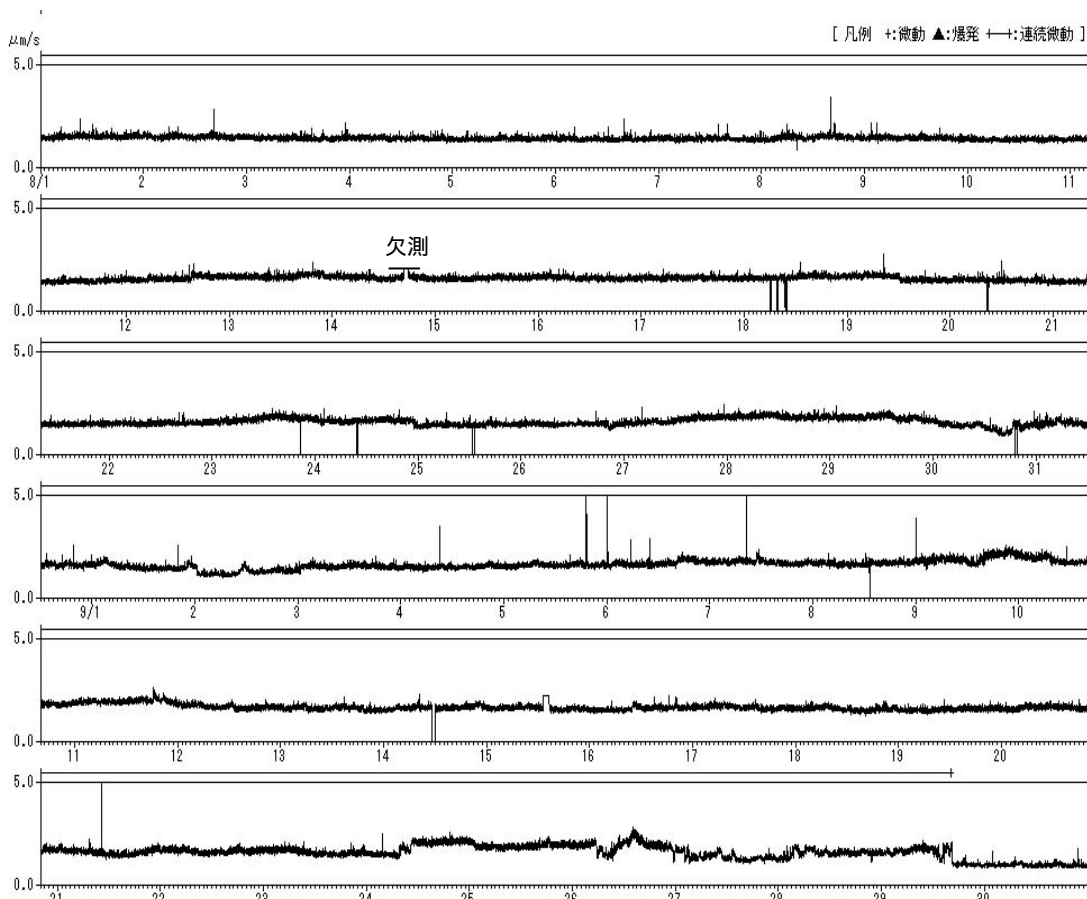


図3 1分間平均振幅の時間変化(A点南北動成分)(2004年8月1日~9月30日)
(雷災により欠測2004年8月14日)

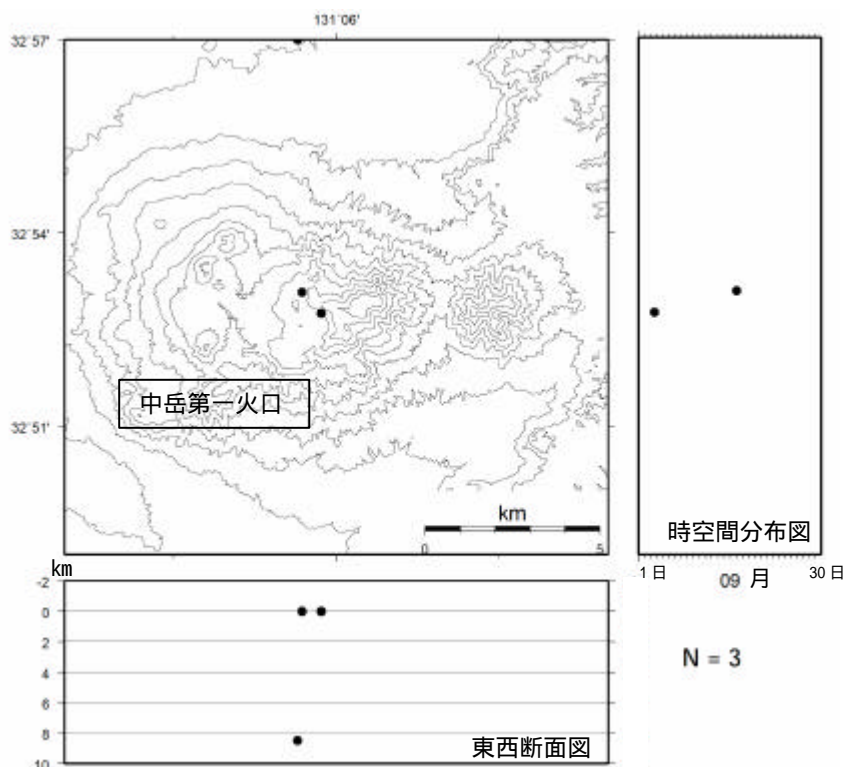


図4 震源分布図(2004年9月1~30日)

本資料は、独立行政法人防災科学技術研究所、京都大学、気象庁のデータを用いて作成した。

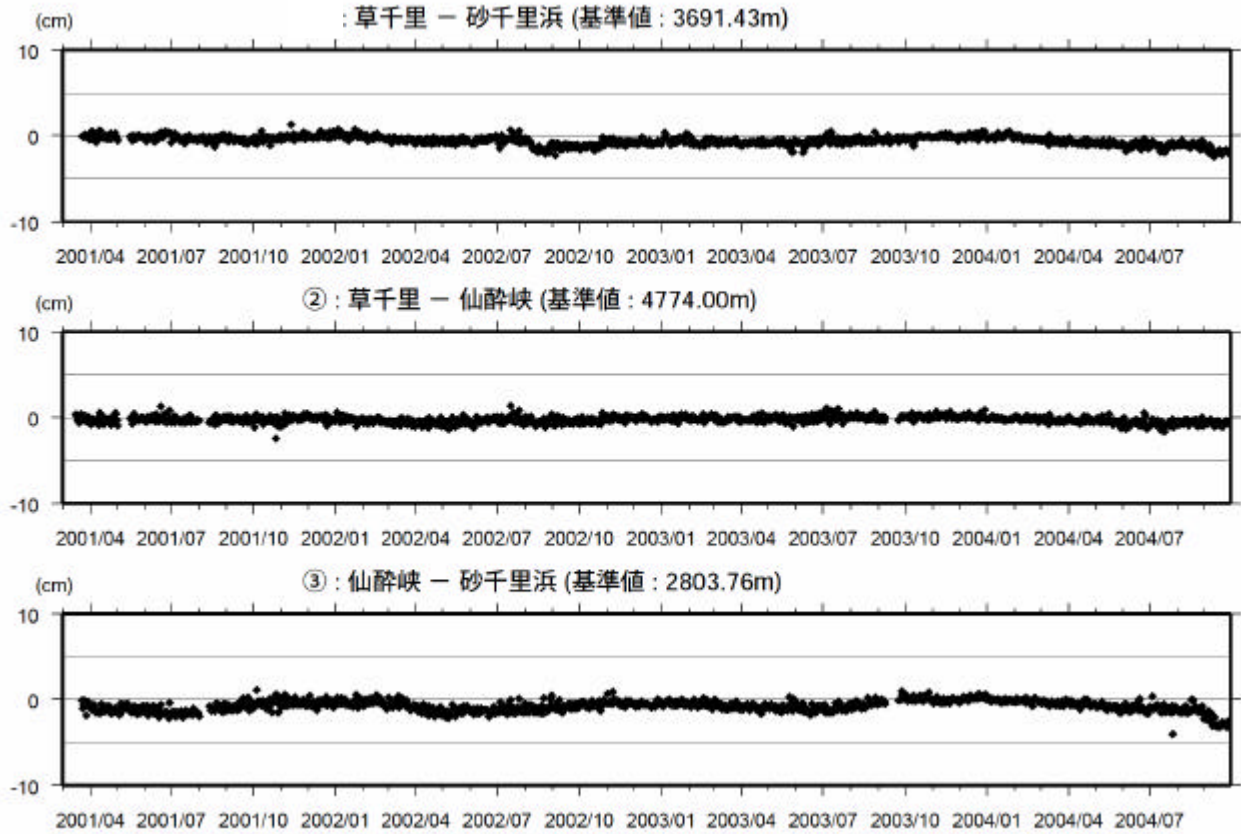


図 5 GPS 観測による基線長変化(2001 年 3 月 15 日 ~ 2004 年 9 月 30 日)

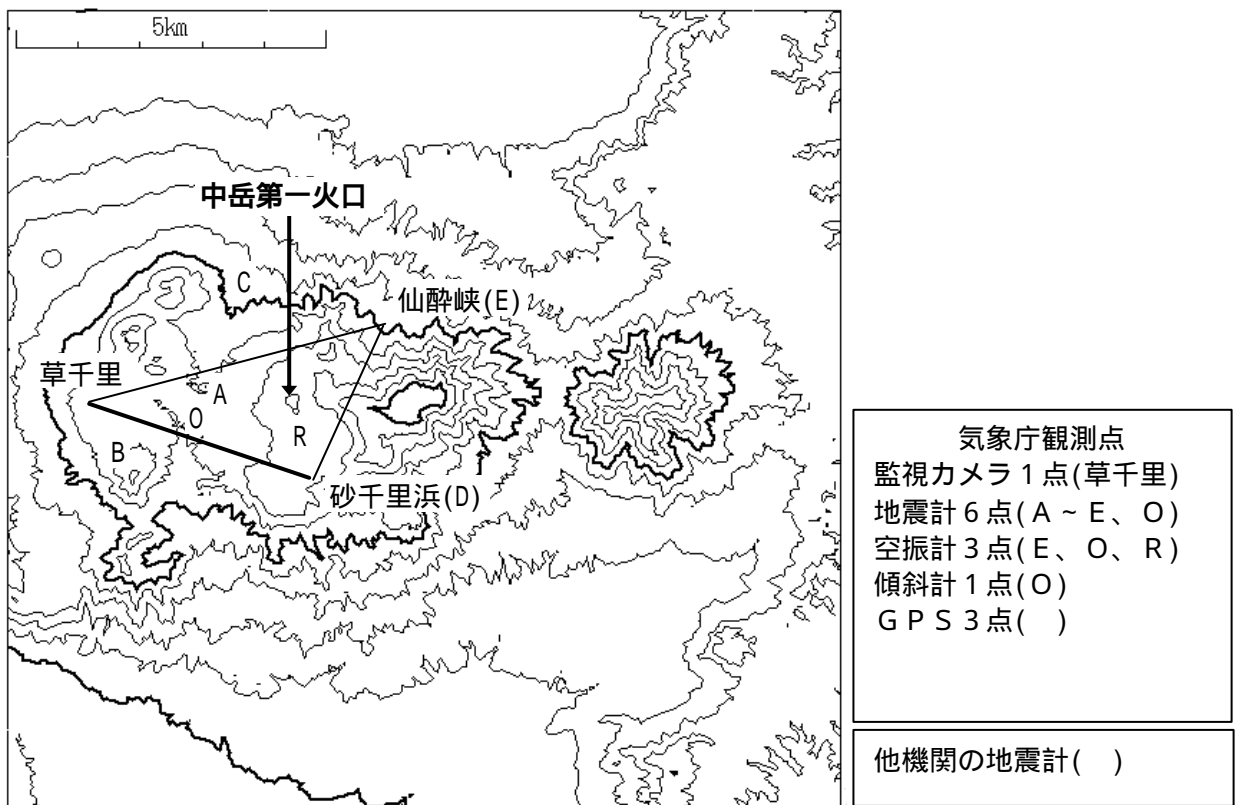


図 6 観測点位置図

阿蘇山